

## 犬上川竹林プロジェクトの2年間

横 川 昌 史  
環境科学部環境生態学科 3年

大学へ通学・通勤するのに多くの方が犬上川を通ってくると思います。犬上川の橋をわたるとき、犬上川沿いに自転車で走るとき、じっくりと川を観察したことはありませんか。おそらくみなさんの地元の川とは違った特徴があると思います。犬上川には川に沿って帯状に広がる緑の回廊があるのに気づきませんか。これは河辺林と呼ばれるもので、川沿いに発達した林なのです。全国的には残り少ないタイプの林で、特に滋賀県では比較的多く残っています。

現在、犬上川の河辺林では大きな問題が起こっています。それは放置竹林の問題です。管理放棄された竹林では竹が増えすぎて、林が暗くなってしまいます。倒竹も増え、人が入れない状態になります。増えすぎた竹は他の植物の生育地に進出し、実生や草本類の生育環境を奪ってしまいます。現在の犬上川河辺林は倒竹がひどく、林の中を歩くのもままならない状態で、暗くなりすぎて姿を消しつつある植物もいます。また、道路まではり出した竹は冬季には落雪の恐れがあり危険ですし、風によって倒されれば交通に支障をきたします。人が入らないことで不法投棄されるゴミも目に付きます。このようなことは全国各地でも問題となっています。

こういった問題はなぜ起こったのでしょうか。昔、竹は建築用材・農業用材・生活用品として利用されていました。また、春には食用としてタケノコを採取していました。こうした竹林の利用によって、竹は適当な本数に抑えられ、また林の中も歩ける状態に維持されていました。しかし、プラスチックの登場や、生活様式の変化によって竹は必要のないものとなり、竹林を管理する人が減ってしまいました。

そこで、再び河辺林に人が入って竹を伐って利用

することで明るい林にしようという活動が犬上川竹林プロジェクトです。主な活動地は彦根市立病院裏の河辺林で、エコキャンパスプロジェクトの学生が中心となって、市民団体の「犬上川を豊かにする会」と一緒に活動しています。また、開出今自治会や開出今第三自治会、彦根市内の方に参加を呼びかけて地域住民の皆さんと共同で活動しています。竹を伐って明るい林をつくることで、植物の生育環境が改善されるとともに、河辺林が地域の方の散歩コースとなったり、竹材やタケノコを採れるようになったり、落雪防止に役立ったりと地域に役立つような効果も期待できます。

それでは、具体的な活動の紹介をしていきます。  
竹伐り

メインになっている活動は竹伐りです。不定期ではありますが、みんなで竹を伐りに行っています。竹を伐るときはただ闇雲に竹をすべて伐るわけではありません。林の中では傘をさして歩ける程度を目安に伐っています。道路沿いでは道路に張り出している竹を中心に、道路への圧迫感がなくなるよう少し多めに伐っています。竹はなるべく根元で水平に伐ります。高い位置で伐ると作業の邪魔になりますし、斜めに伐ると切り口の先が尖ってしまい危険だからです。また、放置竹林では倒竹の量が多いため、倒竹の除去にも力を入れています。現在はノコギリで伐っていますが、今後はチェーンソーの導入も検討中です。

伐った竹を捨ててしまうのはもったいないので利用方法をいろいろ考えています。運びやすい長さに切られた竹は大学に運ばれ、いろいろなものにつく



道路から見た河辺林



暗くなった河辺林内部



竹の伐採

り変えられます。

### 竹炭づくり

竹の有効利用として炭焼きを行っています。炭焼きには移動式の（林試式）炭窯を使用しています。切り出した竹を60cmの長さに切って4つに割り、節をとります。割った竹をなるべく密に炭窯につめていき、いっぱいになったら点火します。点火後は煙突を設置し、煙の色・におい・温度や通気孔から中の様子を見ながら炭化が始まったと思ったら炭窯を土で密閉します。煙突の下部からは竹酢液が採れます。点火から密閉までだいたい10～12時間ぐらい。密閉後は一晩放置しておき、次の日に竹炭を取り出します。

できた炭は参加者に持って帰ってもらっています。畑の土壌改良剤・消臭剤・インテリア・燃料などとして使用しています。

### 竹紙づくり

竹から紙をつくる活動も行っています。竹を2～3ヶ月水につけてアクを抜き、水酸化ナトリウム溶液で煮て繊維をやわらかくします。その後ミキサーで粉砕し、水と糊を加えてすき棒ですき、天日で乾かせば完成です。すくときに落葉を挟むとおしゃれな紙ができます。できあがった紙は一筆箋やしおり、葉書などにしたり、薄めの紙を使ってランプシェードも作りました。また、湖風祭（学園祭）では竹紙づくりの体験コーナーを企画し、作品の販売を行いました。今後は地域の方向けのイベントを企画していきたいと思っています。

### 竹箸づくり

竹素材を身近に感じてもらい、竹の問題を認識してもらうために、湖風祭を中心に竹箸づくり体験を行っています。湖風祭ではゴミ削減のため、お客さんにお箸を持参してもらっているのですが、自分でお箸を作って湖風祭を楽しんでもらう企画です。

お客さんにはちょうど良い長さに切っておいた箸材を割ってもらい、ナイフで好みの形に削ってもらいます。大変身近な生活用具である箸を自分でつくるということで、毎回好評をいただいています。2005年度の湖風祭ではスタードームと呼ばれる竹のドームを作ってその中で箸をつくってもらいました。

### その他のイベント

炭・紙・箸以外でもイベントを行ってきました。甲良町で開かれた子供向けの竹の工作教室の講師として出かけたり、竹で遊ぶイベントのお手伝いをしたりしました。また、年末には多賀町立博物館との共催イベントで門松づくり講座を開催しました。明るい河辺林だけでなく、竹などの自然素材を使った文化をしっかりと受け継いでいくことも大切であると考えています。

今後も地域に目を向けたイベントや活動をもっと展開していきたいと思っています。

### その他の活動

その他の活動としては「犬上川を豊かにする会」や周辺自治会との話し合いを開いて、今後犬上川をどうしていくか議論しています。彦根市清掃センターに、倒竹などの利用が難しい竹や不法投棄されたゴミの処



伐った竹の長さをそろえる



枝の処理



伐った竹を運び出す



竹伐採前



竹伐採後



整備された河辺林内部

分をお願いしました。春にはみんなで河辺林に入ってタケノコ堀りをしています。また、犬上川の河川改修工事に伴う植物の調査に同行したり、竹伐採作業の前には活動地周辺の観察会を行って、より犬上川の自然について知ることができる機会を作っています。京都精華大学が開いた暮らしの中の竹文化を広めるイベントに参加して竹炭のプロの方の意見を聞いたり、ハイチから炭焼きの視察が来たこともありました。

これらの活動は新聞や「エコキャン通信」、エコキャンパスプロジェクトの活動報告書などで広く広報し、より多くの方に活動をお知らせしたり、活動に参加してもらえよう機会を作っています。

犬上川竹林プロジェクトが発足して2年と3ヶ月が経ちました。ここまで来てようやくいろいろなものが形になってきました。エコキャンパスプロジェクトの仲間たち、大学と教職員の方々、そして地域の方々の協力があってこそ、ここまでくることができました。これからは形になったものを今まで以上に地域に向けて発信していく時期だと思えます。

今後の活動として、河辺林の土手に活動のアピール用の看板を設置したり、河辺林に降りる斜面に階段を付けて地域の方が林の中を散歩できるようにしたり、竹炭や竹紙をフリーマーケットなどに出して販売するような案が出ています。また、湖東地域振興局と一緒に竹チップを使って、法面などの雑草の繁茂を抑える実験をしています。これがうまくいけ

ば竹の大量利用が可能になるかもしれません。さらに、活動地の上流にあたる甲良町から、河辺林の放置竹林をどうにかしたいので一緒に活動してくれないかという依頼もきています。夢はどんどん膨らんでいっています。

竹林の管理は短期的に終わるものではありません。ずっと続けていかなければならないものです。また、犬上川だけでなく、全国的な問題でもあります。地域が中心となった管理が必要でしょう。いかに楽しく、いかに手軽に管理できるかが重要になります。管理が負担だと思ってしまうものであれば継続できません。犬上川竹林プロジェクトを地域ごとの竹林管理のよいモデルにしたいと思っています。

犬上川で出た芽が大きくなって、たくさんの実をつけ、いろいろな地域に飛んで行ってほしいです。

コメント：野間直彦（環境生態学科講師）

犬上川については本学の開学当初から、棲んでいる生物・改修工事の影響などに関心を持つ学生の自主的な活動があった。竹林プロジェクトはそれら先輩の蓄積をうまく受け継ぎ、市民の協力者と語らって竹林管理を継続している点が新しい。現代GP予算はその支援に効果をあげている。まだ当初の目的を達成したとは言えないが、まだ話していない団体など、今後様々な関係者と相談することで、活動の継続と広がりが期待できると思う。皆さんも一度、活動に参加してみてください。



伐った竹を4つ割りにする



炭窯



できあがった竹炭



子供と一緒に竹紙づくり



できあがった竹紙



スタードームで竹紙づくり



甲良町で竹の工作教室



門松づくり



犬上川を豊かにする会との話し合い



河辺林の観察会



学生メンバーの集合写真



新しく出た芽